

太鼓や音楽でつなぐ笑顔の輪

～竹太鼓から地域交流のかけ橋へ～



社会福祉法人北信福社会

ほくしん保育園 あづま保育園



第37回北信文化まつり 音楽・芸能祭



伝統文化を継承し、豊かな感性を育む





保育の原点は子ども達の気づき、不思議、なぜ?どうして?から始まる
幼い頃に培った感性が五感を育て、たくましく環境に適応する能力、
生きる力に結びついていきます。

子ども達の持っている、何も無い所から何かを生み出す素晴らしい
一人ひとりの心を大切に育て、保育に広がりを持ち無限の可能性を
引き出していきたい。

子どもの学びに向き合う力

竹太鼓をとことん
遊び込み、
太鼓の魅力を体験

子ども達自ら
「ありがとうございます」
感謝・相手を大切に思う
尊敬の気持ちが育まれた

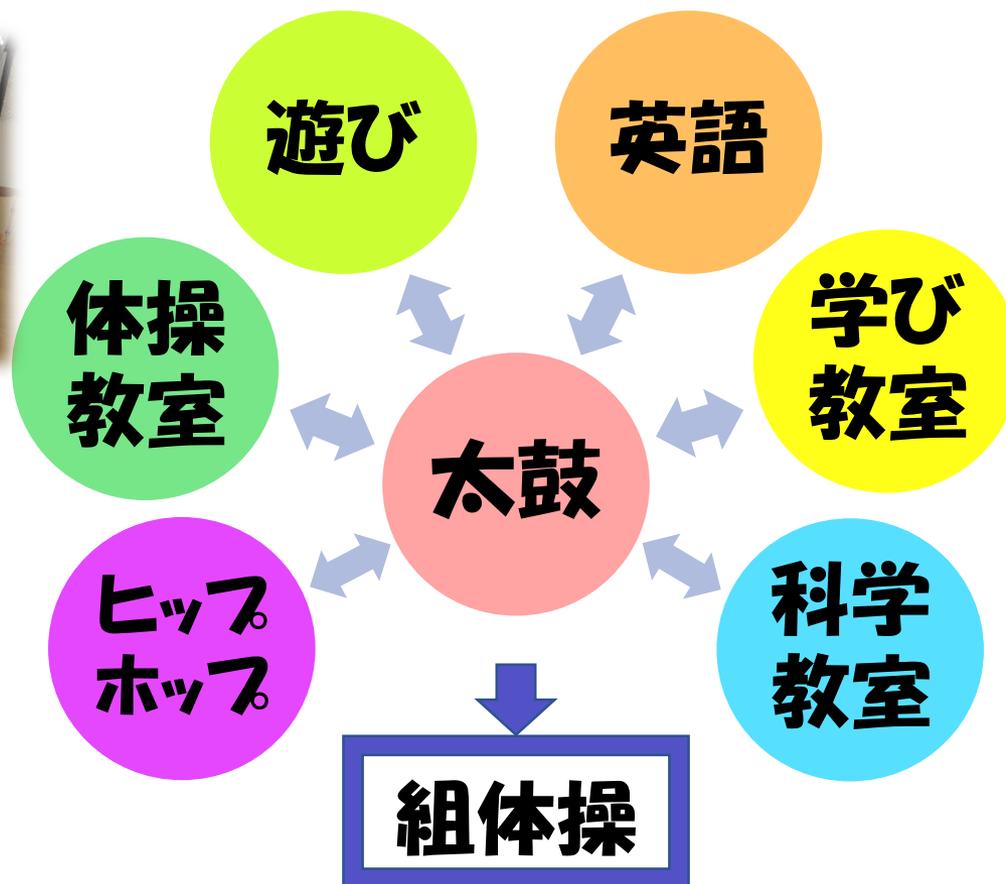
保育園や地域の方との
つながりが広がり、
子ども達に感謝の
気持ちが芽生える

子ども自身が自分の思いや
意思を受け止め、
自ら太鼓の楽しさを味わい、
遊び込んでいくことで・・・

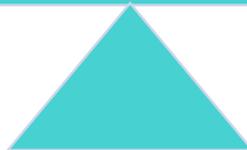
今まで地域の方に
お世話になり、
保育士と一緒に
お礼の気持ちを伝えていた



《太鼓の取り組みからのつながり》 遊び込む事が学びへの土台となる



心 ・ 技 ・ 体



《昨年の振り返りより》



早くやってみたい！！



◎子ども達の気づきから
興味関心が膨らむ

◎達成感を味わえる体験
和太鼓・よさこいへの憧れ

リモートを活用できたことで、姉妹園や他園との交流へと繋がる

新たな取り組みとして

《保育園交流を通しての広がりを深めていく》

他園の友達との絆を深め、子ども達が相互に刺激を受け、子ども達からの発信を促すような学びや、新たな体験や視点の面白さを子ども達同士で感じ、将来福島市を担う子ども達のつながりの“かけはし”になれるよう広めていきたい。



笑顔のつながい

《それぞれの個性を大切に、偏りのない社会を目指す》



北信文化まつり



保育園交流



老人ホーム交流



スプーン保育園
との交流



インクルーシブ
保育



学童・地域の方
との交流

～竹太鼓の取り組みを通して～ 子ども達自らの新たな気づき

◎散歩時、今まで気に止めなかった竹林・・・

「でも細くない？」 「まだ小さいからじゃない？」

疑問 ⇒ どうして

⇒「図鑑で自分たちで調べてみよう」という興味関心



◎竹林にゴミが沢山落ちていることへの気づき

「ゴミひろったらいいんじゃない？」

「ゴミひろいしようよ！」

⇒「みんなでやってみようよ」という意欲



◎どうやったら竹は大きくなるの？

「ゴミひろいすると、竹が大きくなる？」

「SDGsでゴミ拾い、TVでやってたよ」

「ぼくたちもやってみようよ！」

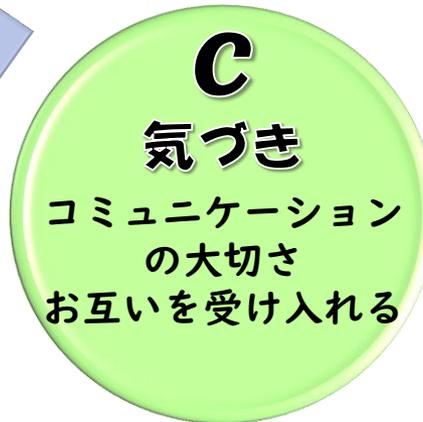


以上の事例から、幼児期の経験の大切さを改めて感じ、
大きな学びとなりました

生きる力を育むために



芽がでるといいな



《ふれあい遊びから表現遊び》

◎リズム遊び・
手遊びを
楽しむ



◎楽器に親しみ、
音を出すことを
楽しむ

◎心と体の
機能を育む



◎五感を
刺激する



柔軟性・運動機能の向上・表現力
リズム感・自己肯定感が高まる



《音楽を通し、心と体を癒しながら生きる力を養う》



◎健康な
体づくり



◎自由な表現力



◎礼儀作法の
習得



◎伝統や継承



◎協調性が
身につく



◎達成感や感動

《主体的な学びの重要性》～太鼓の曲決め～

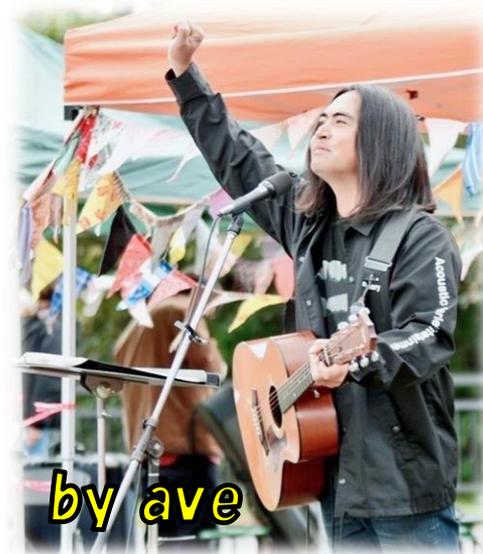
年長児憧れの太鼓・・・

伝統の“まつり太鼓”と年度毎に相談して決める“創作太鼓”話し合いの中で、今年度はCMで耳にしたことのある「ワタリドリ」という曲に決定。



「今までどんな曲をやったの？」

曲決定後「今までどんな曲をやったのか聞いてみたい！」とA子。歴代演奏した曲を聴く中で、「福の歌」が流れると、「これYouTubeできいたことある！」「“フクシマ”って言ってた！私もフクシマに住んでる！」と歌詞にも興味を持つ。



創作太鼓の曲がaveさんの「福の歌」に決定!!

「みんながこの曲聞いたら元気出るかも!!」「あづま保育園のお友だちも聞きたいかも」「ひまわり組さんも一緒に竹太鼓できるかな？」という気持ちの芽生え

子ども主体 ～子ども達の気づきから広げる活動～

一人ひとりの子どもの可能性を大切に、子ども達の疑問を子ども達同士話し合い、相手を肯定的に受け止めていく。



保育者が主体性をもち、結果ではなくプロセスを大切にする保育、
「子ども達が主役で、子ども達から学ぶ保育」を心掛ける



成果

「年長組さんのようにかっこよくなりたい!!」という気持ち
が芽生え、音楽を通して異年齢児が刺激を受け、双方に向上心
が現れる。

遊びの中で太鼓を遊び込む。

「もうできない!」という友達に
「一緒にやってみよう!!」という
励ましの言葉。

チームワークが高まり、失敗体験と成功体験の繰り返し。



今後

- ◎子ども主体の保育を計画する。
- ◎子どもたちで考え形になるまでの時間や、経験の積み重ねの中で培っていく力。
- ◎自ら育もうとする芽、その時の思いに寄り添う過程。試行錯誤の繰り返し。
- ◎とことん遊びこむ経験を、保育士も一緒に楽しむ。
- ◎子どもたちの 声に耳を傾け、子どもたちが自分の気持ちを伝え、相手の思いに耳を傾けることが出来るように寄り添っていく。
- ◎交流を深め、保育士が豊かな人間性と広い視野で、自己研鑽に励んでいく。
- ◎「やってみたい!」という気持ちを尊重し、その自発的で意欲的な行動を保育士が見守り、自信や成長に繋げていく。
- ◎子ども主体の保育を実践し、保護者の方と一緒に、子どもたちが笑顔輝く保育園となるよう取り組んで参ります。

